全国へ発信 240

幼 保 小 中 一貫教育プロジェクト

阿久比町中学生平和体験事業

阿久比町では、毎年8月5日、6日に、阿久比中学校1年生を広島に派遣する中学生平和体験事業を実施しています。事業は平成10年に始まり、今回も8人の阿久比中学校の生徒がさまざまな体験をしてきました。今回は生徒の手記から、彼らが学んできたことをお伝えします。

■問い合わせ先　学校教育課学校教育係　☎(48)1111(内1230・1231)

（敬称略）

【竹内　希】

今回の体験で、原爆に関するいろいろなものを間近で見ることができました。特に印象深かったのは、広島平和記念資料館で見た8時15分で止まった時計や焼け焦げた三輪車、ビリビリに破れた服などのたくさんの遺品です。どれも言葉にできないほど悲惨なものでした。語り部の話を聞くことができたことも、とても貴重な経験になりました。資料館では分からない悲痛な心情が伝わりました。「二度と戦争をしてはいけない」「原爆の恐ろしさをみんなに伝えていかなければならない」という思いを、今後たくさんの人に伝えていきたいと思います。

【木原千波】

私は、広島で核兵器の恐ろしさや威力について学びました。式典で、核兵器が世界にまだ約1万5,000発あることや核兵器を根絶するために平和運動が行われていることを知り、73年たっても核兵器が無くならないことに対する人々の思いが心に響きました。「二度とこのような戦争を起こしてはならない」「戦争をしていたときに人々が感じていた気持ちを味わいたくない」と強く思いました。核兵器は一度つくると、捨てることができません。だから、これ以上核兵器がつくられず、平和な世界になることを願います。

【所　花恋】

私は、語り部の大隅勝登さんから原子爆弾投下直後の話を伺い、想像を絶する状況だったことにショックを受けました。現在、世界には約1万5,000発の核兵器が存在すると言われています。核を持つ国は、威力の大きい核兵器を持つことで、自分の国の安全を保とうとする「核抑止力」という考え方から、なかなか核兵器を手放そうとしません。私は、そういった考え方を早く捨てて、各国の代表が話し合い、言葉で解決できるようになればいいなと思います。そのためにも、日本は唯一の核被爆国として、核兵器がもたらす悲惨さを世界に訴えていかなければならないと強く感じました。